

議事：(1) 第4回協議会の振り返り

(2) パブリックコメントの実施結果について

(3) かわまちづくり計画(案)の修正事項について

- 事務局より資料の説明。
- 修正事項・取りまとめ内容について各委員承認。

議事：(4) 今後の推進体制について

- 事務局より資料の説明。

【質疑応答】

- (委員) 今後はかわまちづくりの推進体制が重要なポイントになると考えている。社会実験を進めていく中で、「かわまちづくりラボ」という名称は大変良いと思う。一方で、指定管理をどのように考えていくか検討いただきたい。また指定管理の役割について、自分達がプレーヤーとして何かをやるだけでなく、指定管理者がどういう人たちに活用してもらうか、活動してもらう人たちの中間支援も役割の中に入れていく必要があると思う。プレーヤーの発見や定着、活動の応援を指定管理の中でやっていく体制を作る必要があるのではないかと。中間支援のところを事務局がやるという考えもあるが、公民連携の中では、民間の指定管理者が担っていくという形が必要かと思う。

赤羽イノベーションサイトは赤羽駅の高架下にできた新しい施設である。観光協会として場所を預かっていて、観光 PR コーナーもある。赤羽イノベーションサイトは、委託を受けている業者と観光協会と北区産業振興課等で運営をしているところでもある。プロモーションや PR については、赤羽マガジンは見ている方も多くなってきている。また、赤羽経済新聞もあり、赤羽イノベーションサイトの運営者と取組みの一体化を図っているというのものもある。赤羽エリアだけでなく、北区全体のエリアにも関わっていける方がよいかと思う。

昔の話になるが、地元のまちづくりの団体が桜まつりをやっていた。志を持っている方はたくさんいると思う。なんらかの形で、かつてこの場所を桜でいっぱいにして活動されていた方々にもこの中に入らせていただいて、社会実験等へのご意見番としてやっていただけるとありがたいと思う。かわまちづくりラボには期待をしているので、運営の費用をどのように出していくか、社会実験をする際にどのような形で関わる人の活動を支援していくかという体制づくりを検討いただきたい。

- (事務局) 今頂いた指定管理の話は、これから河川のオープン化を図る中では、指定管理のエリアの取り方や業務の役割分担などが必要になるので、荒川緑地における指定管理のあり方は相談をさせていただきたい。また様々な産業や PR についても、国への計画の登録が終わってからメンバーを集め、動いていく考えである。どういったメンバーで構成することが良いか、相談をさせていただきたい。

- (委員) 私は amoa のボランティアをやっているが、かわまちづくりラボのメン

バーに amoa のボランティアを入れていただけるとうれしい。ボランティアメンバーの中には別の場所になるが、かわまちづくり計画に関わったことがある人がいて、その取組みは大賞をいただいたと聞いている。そのような方に協力をいただけると心強いかなと思う。amoa のボランティアはやる気があるので、この中に入れていただけたら嬉しい。

(委員) まちづくり協議会の事務局を務めているが、志茂と岩淵の協議会活動を行っており、かわまちづくりラボと今後、どのような連携が図れるか考えたい。

(委員) かわまちづくりラボやかわまちづくり協議会の活動のスケジュールのイメージを教えてほしい。

(事務局) 国への登録が夏頃予定されており、その後キックオフとしてメンバーで集まり、初めはまちの回遊性をテーマに掲げ、メンバーの何人かに集まっていたいただき、テーマに沿った議論をしていくことを考えている。協議会の開催は年1回程度を考えているが、かわまちづくりラボはテーマに沿って年数回実施することを考えている。テーマについては事務局で検討し、委員の皆さんと改めて調整をしていきたい。

(委員) 回遊性の話が出たが、かわまちづくりは岩淵と志茂と北本通りの北側周辺と承知しているが、実際の回遊性となると、駅から赤羽1丁目～3丁目等も想定していく必要がある。議論が必要だと思うのは、かわまちづくりラボとして活動を行うときに、回遊性を考えるとエリア外の人たちも必要になると思う。そこをどのように考えているか教えてほしい。

(事務局) 本編の35頁に記載があるが、かわまちづくりのゾーニングとしてはエリアを黄色く塗った赤羽岩淵、志茂のゾーンであるが、まちの回遊性というと赤羽駅からどのように歩いていくか、そのあたりも広く考えていく必要がある。例えば5社巡りや、シェアサイクルなどこれまでの協議会で出てきた意見もあるので、赤羽からどのように川へ誘導していくかを含めて議論していきたいと考えている。

(委員) まちづくり協議会が作られているのは志茂、岩淵のみならず赤羽もあると思う。そこもかわまちづくり協議会で対象になっているという認識でよいか。

(事務局) かわまちづくりラボの登録メンバーはテーマに応じて広く声掛けをしたいと考えている。

(会長) かわまちづくりラボについては、テーマに応じて臨機応変に参加いただくというところだと思う。

(副会長) かわまちづくりラボは賛成である。1つは立ち上げのスケジュールについて、これから登録が行われ、整備から完成まで5年くらいあると思うが、その5年間をどうするか。またその後かわまちづくりラボにかかわっている人が担い手になるのか、メンバーの中で組織が生まれるのかわからないが、皆さん忙しい中で参加されるので、出来上がるまでの目標、そのあとの目標も定め、やっていただけるとよい。ハード面について、今回のかわまちづくり計画が認められたとしても、現状はポンチ絵レベルでしかない。これからどのように具

体的に設計するかによって魅力的なものにもなるし、残念な結果になる場合もある。河川区域の中に区と国の整備が混ざっている。そこをそれぞれが個別に設計することになると、最終的に場所としては一つだが、連携が取れずに整備が進んでしまうということが考えられる。そのようなことがないようにするためにも、河川区域内の設計をどのように進めるかを検討いただくことが重要である。できれば国・区のそれぞれの事業者をこえて、「北区岩淵周辺をかわまちづくり計画」として議論しデザインを検討いただきたい。

もう1つ、河川区域はかわまちづくり計画で担保されるが、回遊まち巡りゾーンはかわまちづくり計画の直接の補助対象ではないので、どのようにすすめていくのか。かわまちづくりラボはどのように関わっていくのか知りたい。

(事務局) まち側のハード整備は誘導サインのほか、どのように人を導くかが議論になると思う。国の登録制度の後に、新しく立ち上げた協議会の中で議論をしていきたい。

(委員) ハードとソフトともに検討していくという認識ではあるが、かわまちづくりラボも基本的にはソフトを推進しながら、必要に応じてハードの検討に入っていくというイメージか。また初期でかわまちづくりラボのメンバーに登録されているか、いないかで差が出てくると思う。今の状態だと大小の団体が入ってくる可能性があるが、鉄道会社や警察・消防も協議の中で関わって欲しいと思う。どの段階でかわまちづくりラボを拡大させるのか。

(事務局) かわまちづくりラボはソフト施策を検討するのが主と考えている。その中で河川敷の階段やスロープ、親水護岸の計画を協議会の中で議論するという分けではある。しかし、ハードとソフトで連携すべきところに関しては、協議会のメンバーにどのようなメンバーが入ると議論が進むのか検討していかななくてはいけない。警察・消防が入ったほうが、いい議論ができるというご意見があれば、そこも検討したい。

(委員) かわまちづくりラボと推進検討会は並列なのか。かわまちづくりラボ全体を推進するためにその組織の全員が、かわまちづくりラボに入っており、その中の推進メンバーが検討会メンバーになるイメージか。

(事務局) 協議会メンバーからの信任を受けた作業部会がかわまちづくりラボと考えている。並列というよりは、かわまちづくりラボで議論・検討したものを協議会に上げるというイメージである。

(委員) 親会・部会のイメージか。

(事務局) お見込みのとおりである。

(委員) 先ほど話があった桜まつりを、またやって欲しいという意見を、我々20年前からやっていたメンバーの中でよく聞く。ただ、赤羽馬鹿祭りや桜の時期と重なり、資金面で二の足を踏んでいるのが実態である。やりたいことはやりたい。かわまちづくりラボへ桜まつりのチームのような方に入っていただくのはどうか。10年近くやっており経験がある方もかなりいる。桜もたくさんあり、もっと桜を増やしたい、というところで活動がなくなってしまったのが残念で

ある。もし可能であれば、桜まつりも入れていただけるとありがたい。

今後のスケジュールについて

○事務局より資料の説明。

【質疑応答】

(委員) ハードは予算が付くと思うが、かわまちづくりラボのソフト的な部分をするのは、賑わいづくりの検討等までなのか、実施までやるのか、もしくは中間支援型なのか。かわまちづくりラボが社会実験をするというものであった方が良いと思う。そうすると社会実験の費用が課題として出てくる。社会実験の予算を最初から組んでおく必要があると思う。しっかり予算を作って補助金を活用してやるなど、かわまちづくりラボとして社会実験をやっていく形態をとって欲しい。わかりやすいものを作って、みんなに夢を与えるのは社会参画を求めていく中で重要なことだと思う。桜まつりを大きなテーマとするのもよい。飛鳥山などは桜の名所となっているが、ほかの場所の桜は老朽化してだめになっているところが多い。一番元気なのはここだというのがあ。また、芝桜もきれいに咲いている。これらを活用し、ひとつの実験として、賑わいを作るとい。のをかわまちづくりラボのメイン事業としてやっていくのも一つの案と思う。

(事務局) 今年度に関しては検討支援の委託を取っているの。これから立ち上げるかわまちづくりラボや協議会の支援体制は委託をかけながらやっていくが、取組みの推進にどれだけ公費を積んでいけるかは今後の宿題としたい。

(会長) スケジュール感も考えながら、計画を進めていただきたい。

(委員) 計画の39頁でソフト施策について、ハード施策の進捗に合わせて実施と書かれているが、かわまちづくりラボで社会実験を行うので、ハードの施策に合わせて行うよりは、ソフトで実証したことをハードに活かすというのが良いと思う。前半のところで令和7年～10年まではソフト進行型でいきながら、設計に反映されるような実験を開始し、徐々に整備されたところを活用していく、というようにソフトの中でも2段階でできたら良いと思う。

(会長) ハードの設計に生きるようなソフト施策を行うという意見だと思う。

(委員) 荒川に来るのは小学生が多いと思う。子どもたちの意見も入っていた方が良いのではないかと思う。

(事務局) 子どもの水辺でも小学生がたくさん来ているので、子どもの水辺や amoa と連携しながら進めていきたい。

(副会長) 北区より1～2年早く多摩川でかわまちづくりを行っているが、社会実験を行う時期に入ってきている。去年は期間を決めてやったが、必ずしも決まった期間にやるのが合うわけではなかったため、今年は期間を延ばして通年でそれぞれの人がやれるようにした。どのように使うのが良いのか、どこに人が溜まるのが良いかなど、確認しながらハードに落とし込んでいき、出来上がったときに担い手とマッチできるよう、社会実験とうまく結びついていくとよいと

思う。これは想定されていないと思うが、イベント会社に発注してやるという
ような社会実験はやめた方が良くと思う。かわまちづくりラボに参加している
人や仲間が社会実験をやるにしても、多少必要なものがあると思うので、そこ
をどのように手当てをしていくかは検討いただいた方が良く思う。

(委員) 予算の話も大事だと思うが、国交省の外郭団体の補助金があったり、観
光協会だと観光財団があったり、官公庁で使えるものがあったり、公公連携で
取り組んでいただきたい。

以上